

式 辞

鹿島からの潮風が、冬の冷たさから、春の温かさへと移ろいつつある今日の佳き日に、来賓の皆様、保護者の皆様の御臨席のもと、令和五年度愛媛県立北条高等学校第七十四回卒業証書授与式を挙行することができますことを、心からうれしく有り難く思っております。

ただ今卒業証書を授与いたしました、卒業生の皆さんの門出を、心からお祝いします。卒業おめでとう。また、十八年にわたって、彼らを守り、育て、慈しみ、支えてこられた、保護者の皆様、関係者の皆様に、深く敬意を表し、お祝いと感謝を申し上げます。御卒業おめでとうございます。そして、今日までありがとうございました。

卒業生の皆さんが本校に入学した三年前は、感染症対策が最優先で、学校生活のほぼ全てにおいて様々な制限があり、マスク着用や黙食など、定められたルールや決まりを守ることが厳しく求められていました。皆さんが二年次を終えるまでの二年間は、学校生活において、自分で判断したり行動したりする機会がとても少なかったことと思います。そして、皆さんが三年次になった令和五年春、学校でのマスク着用が自己判断になったのを機に、目指すべき北条高校生像として、私は、皆さんにこう伝えました。自分の意志で行動し、その結果を引き受ける覚悟を持った北条高校生になってほしい、と。

その後、体育大会や文化祭などいろいろな場面で、自分自身と仲間のことを考え、周りのことを想像し、そのときにできることを誠実に行う三年次生の姿を何度も目にしてきました。学校生活の様々な場面で、生き生き

と堂々と行動する様子は実に頼もしく、変化に対応する柔軟さと、想像力の豊かさと、ポテンシャルの高さを強く感じたものです。正に、『『人』を想い、自分を磨く』姿であり、本当にうれしく誇らしく感じました。このすばらしい資質が、北条高校の伝統として、二年次生、一年次生に受け継がれていくことを期待しています。

さて、これから皆さんが向かう社会は、高校までの学校中心の生活よりも、多様で、複雑です。また、メディアやSNSなど雑多な情報にあふれています。そこでは、リスクや心配の種をいち早く見つけ、リスクを避けて、じっと行動しないことが、生き残る術であるかのように言われることが多いでしょう。不安や心配があれば、行動を控える。これは、コロナ禍の三年余りで、私たちが身に付けた知恵でもありました。しかしながら、私たちは、知らず知らずのうちに、リスクや心配の種を見つけることが上手になりすぎて、心配のしすぎに偏っているように、私は感じるがあります。

ですから、敢えて、卒業する皆さんに贈る言葉として、「心配しすぎなくていい。あなたなら大丈夫。」と私は伝えたい。自分の頭と心で考え、やりたい、やった方がいいと感じることを、その結果を引き受ける覚悟を持って、行動に移してほしいと思います。皆さんが選んだ行動は、皆さんを、今より少し先、今より少し高い場所に運んでくれます。そこには、今いる所からは見えなかった景色があります。その、少し先の景色、少し高い所からの景色は、行動しない人には絶対に見ることができない景色です。そうやって行動することから得た経験は、皆さんを成長させ、皆さんの世界を広げてくれることでしょう。もう一度伝えます。「心配しすぎなくていい。

あなたなら大丈夫。」、どうか、勇気と覚悟を持って、行動する人になってほしいと願います。

最後に、卒業生の皆さん、北条高等学校は、いつまでもあなたたちの母校であり、味方であり、支えであり、私たち教職員は、皆さんをずっと応援し続けています。

今朝の晴れやかに澄んだ青空のように、皆さんの明日からの人生に、幸多からんことを心から祈念し、第七十四回卒業生の門出を祝して、式辞といたします。

令和六年三月一日

愛媛県立北条高等学校 校長 渡邊 俊